

# 都川都市河川改修事業の 事業再評価について

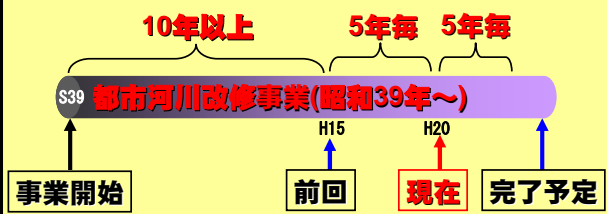
## 再評価がうまれたわけ？

- 長引く景気低迷
- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰指向

・環境への影響は？  
・時代のニーズに合うか？  
・他の方法はないの？  
などの疑問に答える

そのため、国土交通省の事業について  
**公共事業を評価する仕組み**

## 事業再評価の時期



- 【対象】**
- ① 事業採択後5年経過して未着工
  - ② 事業採択後10年経過して継続中
  - ③ 再評価実施後5年経過した事業

## 事業再評価のルール（評価者）

(千葉県国土整備部所管 国庫補助事業再評価実施要領)

### すべての公共事業について

- 1) 河川事業・ダム事業であり
- 2) 河川整備計画策定のための流域委員会がある場合

地域と密接な関係  
計画策定段階から議論

評価監視委員会

流域懇談会

## 事業再評価の視点

- ①事業の進捗状況
- ②社会経済情勢等
- ③コスト縮減・代替案の可能性
- ④事業の投資効果



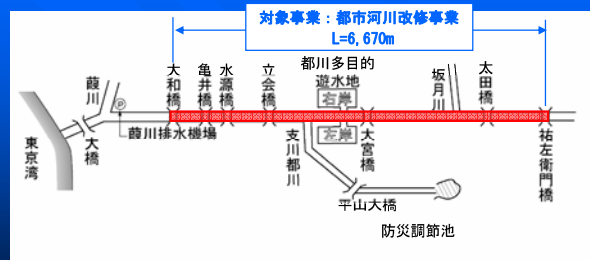
[継続]

審議

[中止]

流域懇談会の結果に基づき河川管理者が判断

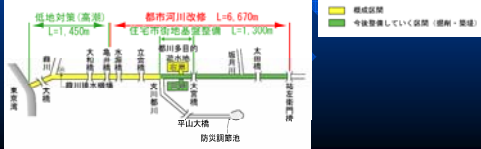
## 今回の再評価対象事業は？



## 視点① 事業の進捗状況

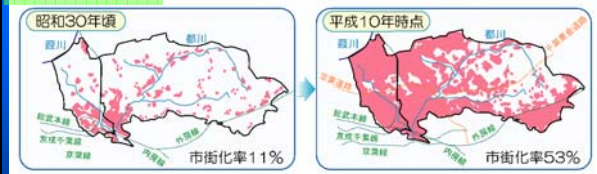
- ① 全体事業費 230.6億円 (349.6億円)
- ② 事業期間 昭和39年度～平成37年度
- ③ H19年まで投資額 156.2億円 (246.6億円)
- ④ 進捗率 67.7% (70.5%)
- ⑤ 残工事内容 河道改修、用地買収

※ ()書き：都市河川改修事業費+住宅市街地基盤整備事業費



## 視点② 社会経済状況

### <市街化の進行>



都川流域の市街化率は60%程度と高い。  
特に都川本川下流部や葎川流域では80%程度まで達している。  
近年もわずかずつであるが、市街地が拡大している

## 視点② 社会経済状況

### <浸水被害>

洪水名	雨量(mm)		浸水面積 (ha)	浸水家屋戸数 (戸)
	60分最大	総雨量		
平成3年9月19日 台風18号	40.5	193.5	約 25	247
平成5年8月27日 台風11号	29.0	179.5	約 39	209
平成8年9月22日 台風17号	39.0	259.5	約 65	43

※雨量は気象庁千葉測候所、浸水家屋戸数は千葉市資料及び水害統計より



平成3年9月 台風18号浸水状況  
京成千葉中央駅付近

平成8年9月 台風17号浸水状況  
大草橋周辺

## 視点③ コスト縮減・代替案等

### <代替案>



市街地部の大幅な河道改修案や遊水地設置案を比較し、効率的な治水方式として、遊水地設置案を選定。  
(遊水地の建設は、千葉市と協同で事業を実施)

## 視点③ コスト縮減・代替案等

### <コスト縮減>



遊水地建設の残土を活用した築堤工事の様子  
(大宮橋下流の右岸側)

河道や遊水地の掘削土は、築堤等に有効活用している。

## 視点④ 事業の投資効果

最大浸水深図【都川、50年確率】



50年に1度の洪水規模で発生する被害額は、84.4億円  
年平均被害軽減額 0.94億円

残事業区間および施設完成後50年間で発生する  
**総便益(B) : 約115.5億円**

## 視点④ 事業の投資効果

事業期間とその後の50年間の総費用(現在価値化後)

今後の事業費 79.4億円

維持管理費 9.0億円

**総費用(C) : 88.4億円**

13

## 事業の投資効果(B/C)

今回の事業の総便益B = 115.5億円

それに要する総費用C = 88.4億円

よって、 $B/C=1.31 > 1.0$ ・・・OK

総便益B  
(Benefit)  
115.5億円

総費用C  
(Cost)  
88.4億円

$B/C=1.31 > 1.0$

14

## 事務局提案

### 視点① 事業の進捗状況

進捗状況 67.7% (都市河川改修事業)

### 視点② 社会経済状況

人口・資産が集中。万一の被害発生時の損失大

### 視点③ コスト縮減、代替案等

河道拡幅案、遊水地案等を比較し現計画が妥当

### 視点④ 事業の投資効果

費用対効果がある ( $B/C=1.31 > 1.0$ )

よって、事業を「**継続する**」のが妥当と判断。

15

## 再評価実施事業調書

番号		事業名	都川都市河川改修事業		路線又は箇所名等			二級河川 都川	
事業所管課		河川整備課			事業主体			千葉県	
事業化年度	昭和 39 年	用地着手年	昭和 39 年	工事着手年度	昭和 39 年度	再評価の理由			
費用便益比 B/C	1.31	総費用	88.4 億円	総便益	115.5 億円	基準年	平成 19 年度	供用開始年度	平成 38 年度

## 事業概要

## (目的)

本事業は、都川本川の大和橋から佐左衛門橋の間について、時間雨量 70mm 相当 (W=1/50 確率規模) の洪水に対応するため、河道改修を行うことを目的とする。工事内容は、河道改修、河道拡幅等に伴う橋梁の架替等の付帯工事等である。

## (主な実施内容)

- |     |                       |      |                       |
|-----|-----------------------|------|-----------------------|
| ・掘削 | 722,000m <sup>3</sup> | ・道路橋 | 15 橋                  |
| ・築堤 | 2,730m                | ・用地  | 229,328m <sup>2</sup> |

## 事業の進捗状況

	全体計画 (億円)	投資事業費 (億円)	進捗率 (%)
全 体	230.6	156.2	67.7
工 事	114.4	64.5	56.4
用 地	116.2	91.7	92.8

## 【社会経済情勢等】

## ①流域状況

都川は、指定延長 13.05km、流域面積 71.65km<sup>2</sup>の二級河川である。都川水系では下流域の市街化の進展や台地部の大規模開発に伴う流出量の増大に対応するため河道改修が進められている。近年、河道改修の効果により下流部の洪水時の浸水被害は減少しているものの、上流部の未改修区間では、水田や低い土地にある住宅、主要道路の浸水被害は現在も発生しており、未改修区間の治水安全度の向上が望まれている。

## ②主な水害状況

- ・ 昭和 61 年 8 月(台風 10 号) 浸水戸数 417 戸 浸水面積 36ha(千葉県資料より)
- ・ 平成 8 年 9 月(台風 17 号) 浸水戸数 43 戸 浸水面積 65ha(千葉県資料より)

## ③投資効果

事業の実施により、浸水面積 87ha、浸水戸数 355 戸の浸水被害の軽減を図ることができる。

## ④その他

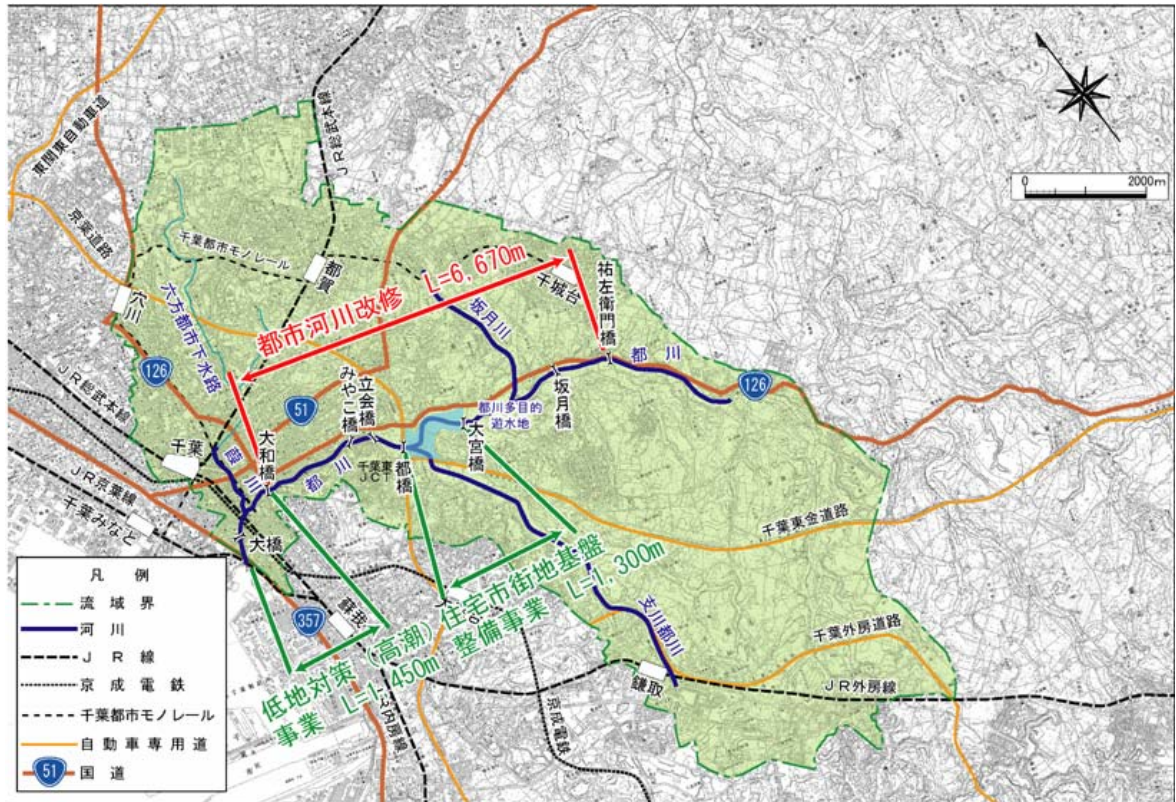
関連事業 : 都川 (住宅市街地基盤整備)  
坂月川 (都市基盤河川改修事業)

対応方針 (案) 事業継続

## 事業概要図

番号		事業名	都市河川改修事業	路線又は 箇所名等	二級河川 都川
----	--	-----	----------	--------------	---------

計画平面図（略図）



都川標準横断面図（支川都川合流点～大宮橋付近）

